

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- 2004年度「学生による授業アンケート」
 - 学部別平均値
 - 項目別平均値
- FD研修会開催
 - ワークショップ
 - FD研修会に参加して
 - 講師の講評
- 駒澤大学FD推進委員会の今後の活動予定

2004年度

「学生による授業アンケート」

2004年7月（前期）と11月（後期）の2回にわたり、駒澤大学として初めての「学生による授業評価アンケート」が実施された。今回の授業アンケートは、専任教員の担当科目のみを対象とし、各教員が選択した2科目について実施した。

授業アンケートの内容は、各質問項目について評定値で回答するもの15～21項目と自由記述欄の2つに大きく分かれている。これら各項目についての結果と自由記述欄の結果については、すでに各教員宛に返却し、可能な限り学生にもフィードバックしていただくよう要請した。

今回ここに報告するのは、後期に実施した講義・演習科目、実験・実習科目、語学科目、保健体育実技科目ごとの各学部・学科別の基本データである。また、以下に今回の授業アンケートの実施概要について記す。

1. 実施期間

前期（前期終了科目対象）：2004. 7.6～ 7.19

後期（後期・通年科目対象）：2004.11.8～11.20

上記期間の該当科目の授業時間中に実施した。

2. アンケート用紙の種類

講義・演習科目 実験・実習科目

語学科目 保健体育実技科目

3. 対象科目数および対象学生数

専任教員が担当する科目のうち、担当教員が選択した2科目を対象とした。

前期 67科目 4,440人（延べ人数）

後期 536科目 57,112人（延べ人数）

4. 実施科目数および回答数

前期 67科目（100%） 2,880人（64.86%）

後期 534科目（99.62%） 24,237人（42.44%）

学部別平均値

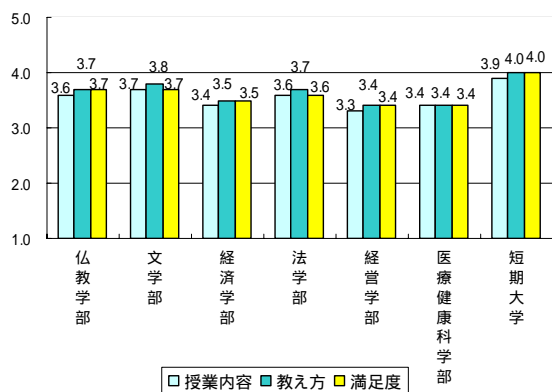
図 1～図 4 は、講義・演習科目、実験・実習科目、語学科目、保健体育実技科目の質問項目のうち、以下の 3 項目の平均値を集計し、表したものである。

なお、後期・通年科目を対象にした。

- ・「授業内容はわかりやすかったですか。」
- ・「教え方はわかりやすかったですか。」
- ・「この授業について全体的な満足度をお聞かせください。」

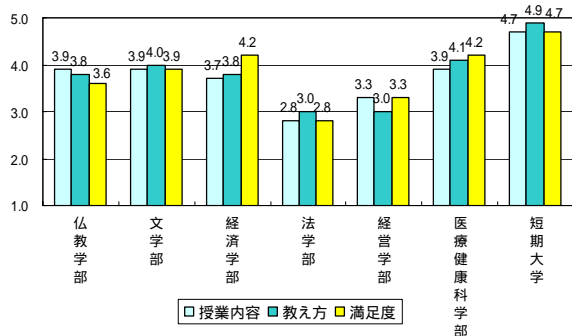
講義・演習科目 (450 科目)

図 1



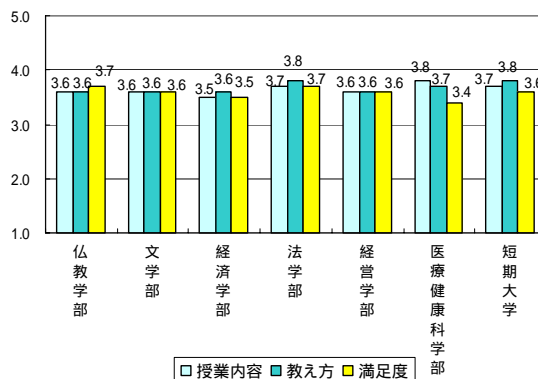
実験・実習科目 (12 科目)

図 2



語学科目 (63 科目)

図 3



保健体育実技科目 (9 科目)

図 4

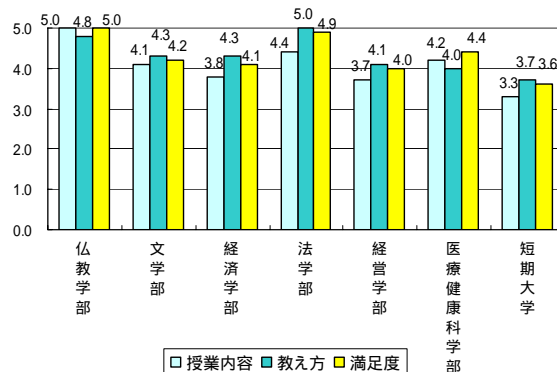
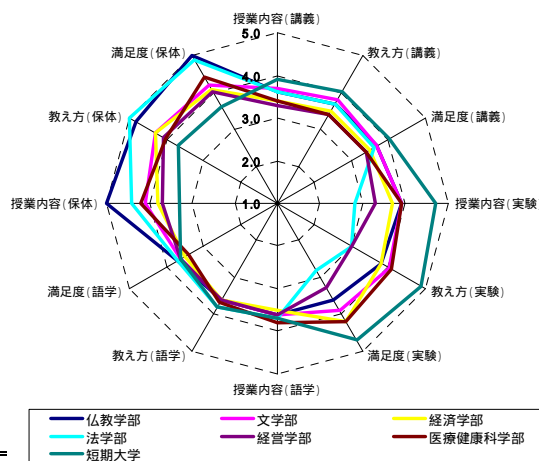


図 5 は、図 1～図 4 をレーダーチャートで表したものである。

図 5



項目別平均値

表1-1～表4-2は、5段階で評価された各項目について、項目別平均値を示したものである。

なお、有効回答のあった学部・学科のみ掲載した。

注：) 歴史学科については、平成16年4月1日の専攻設置に基づき表記した。

表1-1 講義・演習科目

学部 学科・専攻 項目	仏教		文										
	禅	仏教	国文	英米文	地理		歴史			歴史	社会		心理
					地域文化研究	地域環境研究	日本史学	外国史学	考古学		社会学	社会福祉学	
Q 3	3.8	3.8	3.6	3.7	3.6	3.7	3.4	3.4	3.6	3.7	3.5	3.2	3.6
Q 4	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	4.1	3.8	3.9	3.7	3.9	3.8
Q 5	3.7	3.5	3.8	3.6	3.5	3.4	3.4	3.5	3.7	3.7	3.6	3.9	3.5
Q 6	3.5	3.5	3.5	3.6	3.4	3.4	3.3	3.3	3.4	3.6	3.4	3.4	3.4
Q 7	3.7	3.6	3.6	3.7	3.5	3.5	3.3	3.2	3.5	3.7	3.6	3.6	3.6
Q 8	3.7	3.7	3.8	3.8	3.7	3.6	3.5	3.5	3.5	3.9	3.8	3.9	3.8
Q 9	3.6	3.5	3.8	3.8	3.6	3.5	3.3	3.5	3.8	3.7	3.7	3.9	3.6
Q10	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.3	3.2	3.1	3.6	3.6	3.5	3.8	3.4
Q11	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.1	4.1	4.1	4.3	4.2	4.5	4.2
Q12	3.8	3.7	3.9	3.8	3.7	3.5	3.5	3.4	3.7	3.8	3.7	4.0	3.6
Q13	3.9	4.0	4.0	4.2	4.2	4.1	3.8	3.6	3.1	3.8	4.0	4.2	4.1
Q14	3.9	3.8	3.9	3.8	3.9	3.9	3.5	3.3	3.7	3.9	3.6	4.0	3.8
Q15	3.3	3.2	3.2	3.2	3.3	3.2	2.7	2.8	3.1	3.2	3.0	3.3	3.1
Q16	3.7	3.6	3.7	3.7	3.5	3.5	3.2	3.5	3.5	3.7	3.5	3.9	3.6
Q17	4.4	4.5	4.6	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5	4.5	4.5	4.4	4.3	4.4
Q18	3.8	3.6	3.7	3.7	3.6	3.5	3.4	3.4	3.7	3.7	3.5	4.0	3.5
Q19	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.5	3.5	3.4	3.7	3.7	3.6	4.0	3.6
Q20	4.3	4.3	4.3	4.4	4.2	4.0	4.0	3.9	4.1	4.2	4.3	4.4	4.3
Q21	4.1	4.0	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	4.0	4.1	4.2	4.2
Q22	4.0	3.9	4.1	4.0	4.0	3.9	3.7	3.7	3.9	4.0	4.1	4.1	4.0
有効回答数	589	1,175	1,054	1,004	585	458	178	82	48	622	396	499	736

Q 3.履修にあたって講義内容(ｼﾞﾊﾞﾝ)をよく読みましたか。

Q 4.授業中は私語を慎み、勉学に集中し、授業に熱心に取り組みましたか。

Q 5.授業内容はわかりやすかったですか。

Q 6.講義内容(ｼﾞﾊﾞﾝ)は分かりやすかったですか。

Q 7.講義内容(ｼﾞﾊﾞﾝ)に書かれているとおりの授業が進められましたか。

Q 8.授業の進め方は適切でしたか。

Q 9.教材・資料等の利用は効果的でしたか。

Q10.自分が期待していた授業内容でしたか。

- Q11.授業への取り組みは熱心でしたか。
- Q12.教え方はわかりやすかったですか。
- Q13.授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q14.教員の話し方の声量・スピードは聞き取りやすかったですか。
- Q15.板書は、わかりやすかったですか。
- Q16.あなたや他の受講生の質問に対して、説明はわかりやすかったですか。
- Q17.無断休講はなく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q18.この授業の履修を友人や後輩に勧めたいと思いますか。
- Q19.この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q20.この授業の教場の照明はどうでしたか。
- Q21.教場は、この授業にあった広さでしたか。
- Q22.雑音などがなく授業に集中できる環境でしたか。

表1-2 講義・演習科目

学部 学科・専攻 項目	経済		法				経営				医療健康科学部	短期大学			
	経済		商	法律		政治	経営					国文	英文	放射線	仏教
	フレックスA	フレックスB		フレックスA	フレックスB		フレックスA	フレックスB	第1部	第2部					
Q 3	3.5	3.7	3.6	3.6	3.7	3.6	3.5	3.6	3.7	3.7	2.9	4.0	3.3	2.7	3.9
Q 4	3.9	4.0	4.0	4.0	4.1	4.0	3.8	4.1	4.1	4.4	3.8	3.8	4.0	3.7	4.5
Q 5	3.4	3.7	3.5	3.6	3.7	3.6	3.2	3.5	3.6	3.9	3.4	3.9	4.1	3.7	3.9
Q 6	3.3	3.5	3.3	3.4	3.5	3.4	3.2	3.3	3.5	3.6	3.1	3.8	3.6	3.1	3.8
Q 7	3.5	3.7	3.5	3.6	3.7	3.6	3.4	3.6	3.6	3.9	3.3	3.9	4.0	3.4	4.0
Q 8	3.5	3.8	3.6	3.7	3.8	3.7	3.4	3.7	3.7	4.0	3.5	4.0	4.1	3.9	4.2
Q 9	3.2	3.6	3.4	3.4	3.6	3.5	3.2	3.5	3.3	3.9	3.5	3.8	3.8	3.8	4.0
Q10	3.2	3.5	3.4	3.4	3.6	3.4	3.1	3.3	3.5	3.7	3.2	3.8	3.8	3.8	3.9
Q11	4.1	4.2	4.1	4.2	4.3	4.1	4.0	4.1	4.3	4.4	4.0	4.3	4.6	4.3	4.5
Q12	3.4	3.8	3.6	3.7	3.8	3.6	3.3	3.5	3.7	4.0	3.4	3.9	4.3	3.9	4.0
Q13	4.0	4.2	4.1	4.1	4.1	3.9	4.0	4.2	4.3	4.4	4.1	3.9	4.2	4.5	4.4
Q14	3.7	3.9	3.7	3.7	3.9	3.6	3.6	3.9	3.9	4.1	3.5	4.1	4.1	3.9	4.0
Q15	3.1	3.4	3.2	3.2	3.3	3.1	3.2	3.6	3.4	3.7	3.2	3.6	3.8	3.7	3.8
Q16	3.3	3.6	3.4	3.4	3.5	3.5	3.3	3.5	3.6	3.9	3.5	4.0	4.1	3.9	4.1
Q17	4.3	4.4	4.3	4.3	4.5	4.4	4.2	4.4	4.6	4.6	4.4	4.6	4.7	4.6	4.7
Q18	3.4	3.7	3.5	3.6	3.7	3.6	3.3	3.5	3.7	3.8	3.4	4.0	4.1	4.0	3.9
Q19	3.4	3.7	3.5	3.6	3.8	3.6	3.3	3.5	3.6	3.9	3.4	4.0	4.1	3.9	4.0
Q20	4.0	4.2	4.1	4.1	4.2	4.0	4.0	4.3	4.2	4.4	4.0	4.3	4.5	4.2	4.5
Q21	3.8	4.0	3.8	3.9	4.0	3.9	3.9	4.0	4.0	3.9	3.7	4.2	4.5	4.1	4.5
Q22	3.7	4.0	3.7	3.7	3.9	3.7	3.7	3.9	3.7	4.2	3.8	4.2	4.3	3.9	4.1
有効回答数	2,997	571	1,896	2,273	803	1,767	2,416	523	73	120	479	333	136	118	99

表2 実験・実習科目

学部 学科・専攻 項目	仏教		文							経済		法		経営学 科フレックスA 部	医療健康 科学部	短期大学	
	禅	仏教	国文	地理		歴史学 科 日本史学専攻	歴史	社会学科 社会学専攻	心理	経済 フレックスA フレックスB		法律学 科フレックスB	政治			放射線	仏教
Q 3	3.1	3.3	3.7	4.3	3.3	1.5	3.4	4.0	4.2	4.0	1.0	2.0	4.0	2.7	3.0	4.0	4.2
Q 4	4.7	4.3	3.7	4.3	4.5	2.5	3.2	3.8	4.4	4.4	3.0	4.0	3.2	3.7	4.4	5.0	5.0
Q 5	4.3	3.8	3.6	4.1	4.2	2.5	3.0	3.8	4.4	3.6	4.0	3.0	2.8	3.3	3.9	5.0	4.6
Q 6	3.5	3.6	3.4	4.4	2.8	2.0	3.4	3.4	4.0	4.2	1.0	3.0	3.0	3.3	2.9	4.0	4.2
Q 7	4.4	4.0	3.3	4.0	3.0	3.0	2.8	3.8	4.2	4.2	3.0	3.0	3.0	3.3	3.9	4.3	4.8
Q 8	4.5	4.1	3.5	3.7	3.8	2.0	2.8	3.9	4.4	3.0	2.0	3.0	2.4	3.7	4.4	5.0	5.0
Q 9	4.2	3.8	3.4	3.7	4.2	1.5	3.6	3.5	4.4	3.8	3.0	3.0	3.0	3.0	4.1	5.0	4.6
Q10	4.3	3.6	3.3	3.0	3.8	1.5	3.0	3.7	4.1	3.4	4.0	3.0	2.2	2.7	4.1	5.0	4.7
Q11	4.7	4.3	4.0	4.1	4.5	3.0	4.2	4.2	4.9	4.2	5.0	3.0	3.2	3.3	4.8	5.0	5.0
Q12	4.3	3.8	3.5	3.6	4.0	2.0	3.4	4.1	4.5	3.8	4.0	3.0	3.0	3.0	4.1	5.0	4.8
Q13	4.4	4.2	4.2	4.1	4.2	4.5	3.6	4.3	4.5	4.8	4.0	3.0	3.6	3.7	4.4	5.0	5.0
Q14	4.3	4.0	3.5	4.6	4.5	4.5	4.4	3.9	4.8	4.4	4.0	3.0	3.6	4.0	4.4	5.0	5.0
Q15	3.6	3.5	3.4	3.9	3.8	2.5	4.0	3.5	4.4	4.3	3.0	3.0	3.2	3.0	4.2	5.0	5.0
Q16	4.1	3.6	3.4	3.6	4.2	1.5	3.2	3.8	4.4	3.8	3.0	3.0	3.2	3.3	4.1	5.0	5.0
Q17	5.0	4.7	4.3	4.7	5.0	5.0	4.4	4.7	5.0	4.8	4.0	3.0	4.4	4.7	5.0	5.0	5.0
Q18	3.7	3.5	3.5	3.9	4.2	1.5	4.0	3.9	4.4	3.6	4.0	3.0	3.4	2.7	3.9	5.0	4.6
Q19	4.1	3.5	3.4	3.4	4.1	1.5	3.4	4.0	4.5	4.0	5.0	3.0	2.8	3.3	4.2	5.0	4.6
Q20	3.7	3.9	4.0	4.9	4.5	3.5	3.8	4.1	4.4	4.0	4.0	4.0	4.2	4.3	4.3	5.0	4.8
Q21	4.5	4.2	4.0	5.0	4.5	1.5	3.8	3.5	4.3	3.4	5.0	4.0	3.6	4.0	4.5	5.0	5.0
Q22	4.0	4.1	4.1	5.0	4.6	4.0	3.6	4.1	4.7	4.6	5.0	4.0	4.2	3.7	4.5	5.0	4.2
有効回答数	10	99	33	7	13	2	5	20	44	5	1	1	5	3	16	6	18

- Q3.履修にあたって講義内容(ｼﾗﾊﾞｽ)をよく読みましたか。
- Q4.授業中は私語を慎み、実験に集中し、授業に熱心に取り組みましたか。
- Q5.授業内容はわかりやすかったですか。
- Q6.講義内容(ｼﾗﾊﾞｽ)はわかりやすかったですか。
- Q7.講義内容(ｼﾗﾊﾞｽ)に書かれているとおりの授業が進められましたか。
- Q8.授業の進め方は適切でしたか。
- Q9.教材・資料等の利用は効果的でしたか。
- Q10.自分が期待していた授業内容でしたか。
- Q11.授業への取り組みは熱心でしたか。
- Q12.教え方はわかりやすかったですか。
- Q13.授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q14.教員の話し方の声量・ｽﾋﾟｰﾄﾞは聞き取りやすかったですか。
- Q15.実験機材の使用等についての説明は、わかりやすかったですか。

Q16.あなたや他の受講生の質問に対して、説明はわかりやすかったですか。

Q17.無断休講はなく通常通り、授業は実施されましたか。

Q18.この授業の履修を友人や後輩に勧めたいと思いますか。

Q19.この授業について全体的な満足度をお聞かせください。

Q20.この授業の教場の照明はどうでしたか。

Q21.教場は、この授業にあった設備がされていましたか。

Q22.雑音などがなく授業に集中できる環境でしたか。

表3-1 語学科目

学部 学科・専攻 項目	仏教		文										
	禅	仏教	国文	英米文	地理		歴史			歴史	社会		心理
					地域文化研究	地域環境研究	日本史学	外国史	考古学		社会学	社会福祉	
Q 3	3.3	3.5	3.1	3.6	3.5	3.2	2.8	2.8	2.4	3.5	2.8	3.0	3.1
Q 4	3.8	4.2	3.9	4.0	4.1	3.9	3.7	4.3	4.4	4.0	3.4	3.4	4.2
Q 5	3.5	3.8	3.8	3.7	4.1	4.1	3.2	4.0	3.6	3.4	3.3	3.2	3.8
Q 6	3.1	3.6	3.2	3.6	3.6	3.3	2.8	2.9	3.0	3.2	2.7	2.7	3.1
Q 7	3.4	3.7	3.5	3.7	3.8	3.8	2.8	3.5	3.3	3.4	3.0	2.9	3.2
Q 8	3.6	3.9	3.8	3.8	4.3	4.2	3.3	4.0	4.1	3.5	3.3	3.4	3.8
Q 9	2.5	3.3	3.0	2.7	3.6	3.3	3.0	2.6	2.8	3.0	2.9	2.4	2.7
Q10	3.0	3.6	3.5	3.1	3.7	3.8	2.8	2.8	3.3	3.0	2.8	3.3	3.7
Q11	3.2	3.5	3.5	3.4	3.8	4.0	2.9	3.7	3.3	3.3	3.1	2.9	3.5
Q12	4.2	4.4	4.3	4.2	4.5	4.5	3.8	4.5	4.4	4.0	4.2	4.2	4.5
Q13	3.4	3.9	3.8	3.8	4.2	4.0	3.3	3.8	3.6	3.4	3.3	3.3	3.8
Q14	4.4	4.1	4.1	4.3	4.4	4.3	4.6	4.4	3.5	4.4	4.3	4.2	4.1
Q15	3.6	3.8	3.8	3.8	4.1	4.0	3.5	4.0	4.1	3.4	3.5	3.3	3.7
Q16	3.6	3.9	3.8	3.7	4.2	4.0	3.3	4.0	3.6	3.5	3.3	3.4	3.8
Q17	4.7	4.8	4.7	4.6	4.8	4.4	4.7	4.8	4.0	4.5	4.5	4.8	4.5
Q18	3.4	3.8	3.5	3.8	3.9	4.0	3.2	3.8	3.5	3.2	2.9	2.9	3.6
Q19	3.6	3.9	3.7	3.8	4.0	4.2	3.2	3.8	3.8	3.5	3.1	3.2	3.8
Q20	4.3	4.1	4.4	4.4	4.4	4.5	4.1	4.1	4.5	4.2	4.4	4.3	4.6
Q21	3.9	4.0	4.3	4.4	4.2	3.5	4.3	4.0	4.3	4.2	3.7	4.3	4.0
Q22	3.0	3.2	3.2	3.1	3.7	3.3	3.4	3.2	3.1	3.7	3.3	2.8	3.2
Q23	3.8	3.9	4.0	4.1	4.1	3.6	3.5	3.4	4.1	4.1	4.1	3.9	3.8
有効回答数	49	31	80	166	41	33	44	24	8	79	28	58	47

表3-2 語学科目

学部 学科・専攻 項目	経済		法				経営			医療健康科学部	短期大学		
	経済		商	法律		政治	経営				国文	英文	放射線
	フレックスA	フレックスB		フレックスA	フレックスB		フレックスA	フレックスB	第1部				
Q 3	3.3	2.9	3.6	3.2	3.0	3.2	3.3	3.3	3.0	2.9	4.2	3.0	4.0
Q 4	3.8	3.6	3.9	3.9	3.8	3.9	3.9	3.8	4.0	4.4	4.4	4.3	5.0
Q 5	3.7	3.2	3.6	3.8	4.1	3.6	3.9	3.1	4.0	3.8	3.3	4.1	4.5
Q 6	3.4	3.0	3.3	3.2	2.9	3.0	3.3	2.6	3.0	3.1	3.5	3.3	4.0
Q 7	3.7	3.2	3.7	3.6	3.3	3.4	3.6	3.0	4.0	3.5	3.5	3.7	4.0
Q 8	3.8	3.3	3.8	3.8	4.1	3.6	3.9	3.1	3.0	3.8	3.3	4.7	4.5
Q 9	3.3	2.4	3.4	3.8	3.1	3.3	3.4	2.9	1.0	3.8	2.3	3.9	5.0
Q10	3.2	2.9	3.3	3.2	3.4	3.2	3.2	3.0	4.0	3.0	2.8	4.1	4.5
Q11	3.3	2.7	3.5	3.5	3.7	3.3	3.5	2.1	3.0	3.1	2.5	3.4	4.5
Q12	4.5	3.9	3.9	4.2	4.6	4.0	4.3	3.7	4.0	4.3	4.3	4.9	5.0
Q13	3.8	3.2	3.6	3.8	4.3	3.7	3.9	3.1	5.0	3.7	3.4	4.0	5.0
Q14	4.1	4.1	4.3	4.0	4.3	4.0	4.4	4.2	5.0	4.8	4.3	4.4	5.0
Q15	3.8	3.7	4.0	3.8	4.2	3.7	3.8	3.4	5.0	3.9	3.7	4.1	4.5
Q16	3.7	3.3	3.6	3.6	4.1	3.6	3.8	3.1	5.0	3.6	3.7	4.4	4.5
Q17	4.7	4.2	4.8	4.6	4.7	4.4	4.6	4.8	5.0	4.7	4.7	4.7	5.0
Q18	3.7	3.1	3.7	3.8	3.9	3.5	3.8	2.6	4.0	3.3	3.3	3.9	4.5
Q19	3.7	3.2	3.8	3.8	4.1	3.6	4.0	2.7	3.0	3.4	3.3	3.9	4.5
Q20	4.4	4.3	4.5	4.3	4.2	4.3	4.1	4.0	4.0	4.1	4.4	4.3	4.5
Q21	4.3	4.1	4.5	4.3	3.9	4.4	4.1	3.6	4.0	4.2	4.5	4.6	4.5
Q22	3.9	3.1	3.7	3.6	3.3	3.8	3.5	2.6	4.0	4.3	2.7	3.3	4.5
Q23	4.2	3.5	4.0	4.0	3.9	3.8	3.8	3.3	5.0	3.7	4.4	4.3	4.5
有効回答数	121	76	44	108	18	60	109	43	1	52	12	7	2

- Q 3.履修にあたって講義内容(シラバス)をよく読みましたか。
- Q 4.授業中は私語を慎み、勉学に集中し、授業に熱心に取り組みましたか。
- Q 5.授業内容はわかりやすかったですか。
- Q 6.講義内容(シラバス)はわかりやすかったですか。
- Q 7.講義内容(シラバス)に書かれているとおりの授業が進められましたか。
- Q 8.授業の進め方は適切でしたか。
- Q 9.補助教材の視聴覚資料(加特、ビデオ等)を有効に取り入れたわかりやすい授業でしたか。
- Q10.双方向の会話なども取り入れた授業でしたか。
- Q11.自分が期待していた授業内容でしたか。
- Q12.授業への取り組みは熱心でしたか。
- Q13.教え方はわかりやすかったですか。

- Q14. 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q15. 発音・速さは聞き取りやすかったですか。
- Q16. あなたや他の受講生の質問に対して、説明はわかりやすかったですか。
- Q17. 無断休講はなく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q18. この授業の履修を友人や後輩に勧めたいと思いますか。
- Q19. この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q20. この授業の教場の照明はどうでしたか。
- Q21. 教場は、この授業にあった広さでしたか。
- Q22. 視聴覚教材等を利用できるように整備された教場でしたか。
- Q23. 雑音などがなく授業に集中できる環境でしたか。

表4-1 保健体育実技科目

学部 学科 専攻	仏教		文						経済		
	禅	仏教	英米文	地理		社会		心理	経済		商
				地域文化研究	地域環境研究	社会学	社会福祉		フレックスA	フレックスB	
Q 3	5.0	5.0	5.0	2.8	3.8	3.2	2.9	3.6	4.0	3.4	3.7
Q 4	4.0	5.0	5.0	4.4	3.5	3.3	4.4	4.4	4.5	4.0	3.7
Q 5	4.0	5.0	5.0	4.2	4.0	3.5	4.1	4.8	3.0	3.8	3.3
Q 6	3.0	3.0	5.0	2.4	2.3	2.8	2.7	2.0	2.0	3.1	4.1
Q 7	5.0	5.0	5.0	4.0	3.5	3.7	4.2	4.6	2.5	4.0	3.7
Q 8	5.0	5.0	5.0	4.4	4.0	3.8	4.3	4.8	4.0	4.0	4.0
Q 9	5.0	5.0	5.0	3.0	4.0	3.3	3.9	4.2	4.5	3.9	4.1
Q10	4.0	5.0	5.0	4.8	4.3	4.2	4.7	5.0	4.5	4.5	4.4
Q11	4.0	5.0	5.0	4.4	4.0	3.7	4.5	4.8	5.0	4.4	4.1
Q12	5.0	5.0	5.0	4.2	4.8	3.5	4.5	3.8	4.5	4.5	4.7
Q13	5.0	5.0	5.0	4.8	5.0	3.5	4.7	4.8	4.0	4.3	5.0
Q14	5.0	5.0	5.0	4.3	3.3	3.2	3.9	4.2	3.0	4.2	4.1
Q15	5.0	5.0	5.0	4.6	3.3	4.3	4.0	4.6	2.5	4.3	4.1
Q16	5.0	5.0	5.0	4.4	4.3	3.7	4.3	4.8	4.0	4.4	4.3
Q17	4.0	5.0	5.0	4.2	4.3	3.7	4.0	4.4	4.5	4.3	4.4
有効回答数	1	3	1	5	4	6	10	5	2	22	27

表4-2 保健体育実技科目

学部 学科・専攻 項目	法		経営				医療健康科学部	短期大学	
	法律		経営					国文	放射線
	フレックスA	フレックスB	フレックスA	フレックスB	第1部	第2部			
Q 3	2.8	4.7	4.2	3.2	4.0	1.5	3.0	3.9	3.0
Q 4	4.3	4.5	4.0	4.4	5.0	3.5	4.2	4.3	3.0
Q 5	4.3	4.7	4.2	3.8	5.0	3.5	4.1	3.9	5.0
Q 6	1.7	1.7	3.2	2.1	1.0	1.0	3.1	2.2	3.0
Q 7	4.5	4.3	4.2	3.7	5.0	2.0	4.2	3.3	4.0
Q 8	4.3	4.7	4.0	4.0	5.0	4.0	4.2	3.4	4.0
Q 9	4.5	4.7	4.0	3.6	3.0	3.0	3.9	3.6	3.0
Q10	4.5	5.0	4.4	4.4	5.0	4.0	4.1	4.5	4.0
Q11	5.0	5.0	4.0	4.1	4.0	3.0	4.0	3.6	4.0
Q12	4.5	5.0	4.4	4.3	5.0	4.5	4.4	4.0	4.0
Q13	5.0	4.3	4.8	4.4	5.0	4.5	4.5	4.5	5.0
Q14	4.8	4.7	4.3	3.8	5.0	2.0	4.3	3.3	3.0
Q15	5.0	4.7	4.0	4.0	5.0	2.0	4.4	3.5	4.0
Q16	4.3	5.0	4.3	4.3	5.0	4.5	4.4	3.4	4.0
Q17	4.0	4.3	4.5	4.0	5.0	4.0	4.3	3.7	3.0
有効回答数	4	3	5	97	1	2	28	22	1

- Q 3.履修にあたって講義内容(シラバス)をよく読みましたか。
- Q 4.授業時間中は私語を慎み、実技に集中し、熱心に取り組みましたか。
- Q 5.あなたから見て他の受講生の受講態度はどう思いますか。
- Q 6.視聴覚教材(ビデオ等)を利用した効果的な授業でしたか。
- Q 7.自分が期待していた授業内容でしたか。
- Q 8.授業の進め方は適切でしたか。
- Q 9.講義内容(シラバス)に書かれているとおりの授業が進められましたか。
- Q10.授業への取り組みは熱心でしたか。
- Q11.教え方はわかりやすかったですか。
- Q12.授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q13.無断休講はなく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q14.この授業の履修を友人や後輩に勧めたいと思いますか。
- Q15.この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q16.この授業にあった設備が整備されてましたか。
- Q17.前後の授業への移動に時間的な不都合はありませんでしたか。

F D 研修会開催

駒澤大学FD推進活動の一環として、2月28日(月)14:30より、専任教職員を対象にFD研修会が以下の要領で開催された。

プログラム



大谷哲夫学長挨拶

- ・ 講演 14:30~15:30 (1-201 教場)
 - テーマ 「実践的授業改善の方法」
 - 講師 早稲田大学 教育・総合科学学術院 三尾忠男助教授
- ・ ワークショップ 15:35~16:30
 - 授業評価(1-510 教場) メディアの活用(1-306 教場)
 - 成績評価の手法(1-512 教場) 講義法(1-513 教場)
- ・ ワークショップの報告会および講師の講評 16:40~17:20(1-201 教場)
- ・ 講師を囲んで懇談会 17:30~18:30(大学会館3-2)



講演会(1-201 教場)

ワークショップ

「授業評価」、「メディアの活用」、「成績評価の手法」、「講義法」という4つのテーマを設け、それぞれのテーマごとにワークショップを開催した。

「授業評価」

経済学部教授 光岡博美(小委員会委員)

まず、最初に昨年10月に全学で実施された授業評価アンケートの結果についての感想がだされた。この場合、評価の良し悪しは個々の教員の能力以外にも、例えば短大のようにセメスター制を実施している場合には、それ以前よりも評価が高く、経・法・営のように比較的授業が多い学部では、相対的に低い評価がなされていることにも示されるように、講義の外的条件によって評価が左右される場合もあるとの意見が出された。また、学生がシラバスを読み、講義計画や内容を理解したうえで、科目履修をしているのかどうかということについても疑問がだされた。

アンケートの項目については、講義の内容により深く立ち入った項目が必要であることも指摘された。というのも現行の項目では、個々の教員は自分の授業が学生からどのように評価されているかについての比較的大まかな認識は得られるものの、この結果をもち寄って今後の改善点を議論するためには余りにも漠然としたものとなっていて、議論が深めにくいことが指摘された。これを補うものとして、例えば個々の教員が独自に質問する項目も付け加えてよいのではないかと意見もあった。また、授業に積極的に出席している学生とそうでない学生をグループ分けにして各々の評価を別々に集計するようなやり方も必要だとの意見もあった。

さらに、今後の課題としては、学生への情報公開をどのように進めていくか、個々の教員の授業をお互いに公開し、教員相互の交流と意見交換を活発にしていくためには何をしたらよいかといった問題が提起された。に関しては、教員が口頭で学生にアンケート結果を報告し、その結果について意見や感想を述べることで、さらに進んで、より詳しい内容を文章化して公表するといった方向がある。については、全学で授業を公開してもよい教員のリストを学部別に作成し、活発な交流を行うことの重要性が指摘された。



テーマ：「授業評価」
(1-510 教場)

「メディアの活用」

座長 経営学部教授 猿山義広(小委員会副委員長)

ワークショップ「メディアの活用」においては、「『授業』というコンテンツの質を高めるためにメディアをいかに活用すべきか」という主題を設け、駒澤大学の教育現場におけるメディア活用の現状について報告と討議を行った。

現状報告では、教員が自ら作成した個人HPやスライド・動画の利用方法が述べられ、現時点においては、一部の例外を除くと、個々の教員が自らの研究時間を割いて独力でメディアの活用に取り組んでいる実態が明らかになった。

続く討議においては、ほとんどの教員から、いかにメディアが活用されようとも、大学の授業では黒板等を用いてのその場での説明が不可欠であり、IT・AV機材がその妨げになってはいけないという意見が述べられた。具体的にいうと、大型モニターの設定によって、黒板が使えなくなるようでは意味がないということである。このことは、メディアおよびプレゼンテーション用のソフトは大学教育にとってあくまでも道具であり、メディアの活用は手段であり、目的ではないという当たり前の真理を意味している。

メディアの活用が効果的となるような場合についても議論は行われた。ほぼ合意されたのは、授業の内容についてコンパクトにまとめたスライドや動画は、授業を紹介するときや学生が復習するときには有効であろうということである。そのほか、学生の集中力を高め、教室の雰囲気を引き締めるために、教員の顔や教室の様子をモニターに映すという方法も紹介された。これは一度試みるべき価値がある面白い方法と思われる。

「成績評価の手法」

座長 文学部教授 坪井 健

2月末日の午後、本学初のFD研修会。講演会の後のワークショップで、私は「成績評価の手法」に参加した。参加者は4学部教員と職員の計9名。私は思いがけず座長を頼まれる。約一時間の限られた時間、自己紹介を兼ねて各自の経験や問題点などを披露してもらった。「少人数で成績が甘くなる」「友人が作った作品を提出する学生がいる」「クラス毎の

成績差が大きい、GPA導入はそれを無視することになる」

「評価方法を全面開示すると、最終試験で手抜きする学生が増える」などの悩みや問題が披露され、意見交換した。

後半はもっぱらGPA問題である。公正な成績評価は「絶対評価」、しかしGPAは「相対評価」。何故だという疑問の声。裏事情を聞けば、教員毎のバラツキが大きく、適正に成績評価していると言えない事例が散見されるという。しかし誰も口出しできない。その公明正大な改善策はGPAしかない。GPAは公平性を保つ「次善の方法」として国際基準になりつつある。矛盾の多いGPAであるが、国際的に甘いと言われる日本の成績評価、その厳密化の証がGPA導入である。議論の余地は多いが、改善なしに議論してはいるその熱意は評価されない。今GPA導入を通じて評価されているのは、学生の成績ではなく駒澤大学自体の評価なのである。

そんなことも少しわかってきた。短い時間だったが満足感があった。こんな本音で意見交換する場が継続的にほしいというのが、参加者の共通した願いになったのが収穫である。



テーマ：「成績評価の手法」(1-512 教場)

「講義法」

座長 法学部教授 高橋洋城(小委員会委員)

講義法のワークショップには10名の参加者があり、熱のこもった意見交換が行なわれた。ただ時間の制限もあり各々の体験を聞き合うことが主になった感もあるが、その中でも、多くの教員に共有されている問題は、ある程度見えてきたと思う。

テーマは「講義法」であったが、まずは講演の感想として、

授業評価や学生への緻密なケアに毎回の時間を費やすことの現実的困難さの指摘が多くの参加者からあった。ただしこれはFDに消極的な意識の現われでは全くなく、本題の講義改善の議論にも繋がるものだった。すなわち、学生個々の反応や評価に気を配ることが求められる一方で、各分野での最低限の知識の伝達のためにかけるべき時間・労力も増大してきているというジレンマである。

現在の学生の授業に於ける受動的姿勢はこれまでも指摘されてきたところであるが、その傾向は年々進み、まともにノートできなかつたり、単純な板書の筆写にすら相当時間を与える必要が出てきた（結果、講義時間が足りなくなる）という事例報告もあった。また大人数対象の講義では学生の理解力・関心も様々でありしばしば矛盾する要求もある状況において、講義目標やレベル設定の難しさも指摘された。

このような議論から、学生側の受講スキルを身につけさせることの必要性は、参加者間の意見が収斂したところである。また、この点を含め、教員個々のFD意識改革だけではなく、授業支援や教場等入れ物面の環境向上などについて、大学としての一層の組織的な取り組みが必要であるという点も参加者の共通認識であった。



テーマ：「講義法」(1-513 教場)

FD研修会に参加して

文学部教授 小野浩一（小委員会委員長）

研修会の第1部は、早稲田大学教育・総合科学学術院の三尾忠男先生の講演であった。三尾先生は、教育工学、教育方法学がご専門で、自らFDを研究実践している方である。以前にメディア教育開発センターにおられただけあって、パワーポイントの使い方一つとってみても、無駄なく洗練されて

おり大いに参考になった。ワイヤレスマウスを使えば、パソコンから離れ、聴衆の方に歩み寄って話ができるんだ、など妙なことに感心したりもした。

「実践的授業改善の手法」というタイトルの話の中心は、授業評価をどのように利用するかというものであった。とくに、「授業評価カード」や「大福帳」といったツールを使って、毎回の授業について学生から意見を求め、教師がそれにフィードバックするようにすると、たとえば、学生の満足度は、教師の教壇での立ち位置によって変わる（教師に近かった学生の満足度は高い）などいろいろ興味深いことが見えてくることのであった。

もう一つ、三尾先生の話で興味深かったのは、大切なのは授業「改善」ではなく「開発」だという話である。「改善」というと現在改善すべき問題があって、それが改善されればおしまいというイメージになるが、「開発」は、日々授業を見直し、対象者や状況にあったよりよいものに変えていく営みなのである。

研修会の第2部はワークショップで、参加教職員が4つの分科会にわかれ、熱心な討論を行った。詳細は各分科会の報告に譲るが、私が参加した講義法分科会では、若い教員やベテランの教員から、それぞれの工夫や苦労話が披露された。

「大福帳」は使えばいいことは自明だが、今の勤務状態ではなかなか難しいことや、授業の諸問題を突き詰めていくと学部や学科の教育方針やカリキュラム、あるいは施設の問題にかかわってくるなど、組織的な取り組みの必要性を改めて感じた次第である。

短期大学英文科教授 高野秀夫（小委員会委員）

今回の駒澤大学のFD推進委員会の研修会は、長い駒澤大学の歴史において初めて全学部が一体に成って教授法開発に取り組んだ画期的な会であった。今や大学は、積極的に社会のニーズに即応した教授法の開発を推し進め、新時代に相応しい大学教育を目指さなければならない時代を迎えている。その意味でも、早稲田大学の三尾忠男助教授による「実践的授業改善の手法」の講演会は有意義であった。

大学の 대중化はもはや自明の理である。この観点でも早急に、学生主体の新しい教育改革を断行して行かなければならない。

保健体育部教授 村松 誠（小委員会委員）

2月28日に駒澤大学第1回目のFD研修会が開かれました。初めての研修会としてはまずまずの参加であったように思われます。私は、委員ということもあり、準備から最後の懇親会まで参加しました。ここでFDについて、いろいろな先生方や職員の方々と意見交換、情報交換ができたことは、非常に有意義であったと思います。若干ではありますが、感じたことなどを記したいと思います。

研修会の第一部は、早稲田大学の三尾先生の「実践的授業改善の方法」と題する講演でした。大福帳というコミュニケーションツールを用いた学生とのやり取りシートが印象的であった。これは出席管理にも使うのですが、カードリーダーを用いて短時間で処理しており、かなりの多人数でもこなせることが利点であると思います。しかしこれは機器の設備など経済的負担がかかるのが難点ですが、トライしてみるのも面白いと思います。さらに、授業改善のためには記録をとることが大切であることが述べられましたが、これは授業アンケートの積み重ね、比較検討を今後も継続することであると思います。最後に、授業改善の努力は組織で行うことが大切で、1人の教員が改善しても効果は薄いとの考えを示されました。

第二部は4つのテーマに分かれての分科会が行われました。私は、「成績評価の手法」というワークショップに参加しました。まず座長が文学部の坪井先生に依頼され、各参加者からそれぞれの現状と問題点などが述べられました。参加された先生方には、それぞれ御自分の成績評価に問題意識を持っておられることが感じられました。話題はGPA制度へと進みましたが、受講者間に有利、不利が出ないような配慮、学部・学科間の差、学力低下問題、選択と必修の問題などが議論されました。結論的には、事務職員の方から若干の説明がありましたが、GPA制度についてはまだ情報が少なく、もっと議論が必要との方向になりました。議論は白熱し、最後は分科会報告に移動するようにと催促を受けるほどでした。

最後は、各分科会からの報告と三尾先生の総括が行われました。メディアの活用からは、活用報告がなされたこと、メディアだけでなく従来のチョークアンドトークを含めた方法とその教場の作り方の問題、状況を伝えるために教員の顔を映すことなどが報告されました。講義法からは学生の受講スキルについて、授業を受けるための授業が必要ではないかとの報告が印象的でした。私の経験からしても徐々に学生の受講スキルという観点からは落ちているという感じがしています。

このセッションの最後は三尾先生の総評でした。学生アンケートは学生にその場で返す必要があるとのことでしたが、昨年度行われた授業アンケートでは、保健体育科目が半期で終わるということもあり、十分達成できなかったことが残念です。メディアについては、メディアが生かされる場面で使用することが重要とのことでした。メディアのネガティブな面は、私にも経験があり、これからの授業づくりに大変に参考となりました。成績評価分科会では、成績評価の方法を学生にすべて開示するとテストの成績が悪くなる傾向があることが述べられましたが、三尾先生は、可でよい学生はそれでよいとの考え方を示されたのが印象的でした。講義法では、早大の事例として受講のための授業が行われているとのことでした。また、レポート提出について、友人の評価を加えてから提出させる方法に興味を惹かれました。

最後は懇親会でしたが、ここでは他学部の先生方や、職員の方と情報交換ができたことが大きな収穫でした。私も、同じ保健体育の領域では、いろいろな研修会や学会等で同僚や先輩方と授業について情報交換をしていますが、他の領域からのお話を聞けることは自分にとって大いに参考になります。今後、第2回目、第3回目とこの研修会も開催されることと思います。FDというテーマも、時代の変遷とともに尽きることが無い様に思います。

講師の講評

早稲田大学 教育・総合科学学術院
三尾忠男助教授



各ワークショップへの今後のテーマ提案を盛り込んだ講評をさせていただきます。

「授業評価」: 設問の妥当性と教員ならびに学生へのフィードバックの方法にまで議論が及び、次に各箇所各授業各々の授業改善に資する調査のあり方を検討する段階へ向かうことが予見されるもので有意義だったことと思います。調査の日常化によって授業内容に踏み込んだ改善を目指すとともに、教員と学生にとって形骸化しない工夫を合わせて、今後議論を進めていただきたい。

「メディアの活用」: PC を使用する教室設備について実際に使用した教員から改善点が出され、非常に具体的なものでした。効果的なメディアや IT 活用にとって現場の声がもっとも重要です。量講義法と合わせて学内から実践知を集め、積み重ねていただきたい。さらに教員はもちろん学生のメディア練度も大切な要因となってくると考えます。一人の学生が受ける授業の数と IT 活用の量を勘案して適度なメディア活用場面を各箇所検討していただきたい。

「成績評価の手法」: 絶対評価なのか相対評価なのか、成績評価観点と配分はどこまで明示するのがいいのかなど多くの議論ができるテーマです。授業の目標がどこにあり、どれだけ達成できたのかを授業者自身が確認する成績評価結果について、4 年間のカリキュラムとの関係も考慮にいった議論に発展することを期待します。

「講義法」: 既習内容を始め、学生の質の変容が教員の想像を超える勢いで進んでいる実態が授業の教授法と進め方に強い影響があることが浮き彫りになっていました。入試形態の多様化はもちろん、学校教育の内容の変化にも対応せねばなりません。内容以外にもノートの取り方やレポートの書き方、図書館の利用など大学での学びに共通したスキルの育成に大学全体として取り組む課題かもしれません。小さなアイデアですが、レポート提出前に学生同士で相互評価の機会を与え、修正したのち提出することも効果が期待できます。

F D 研修会の第 1 回でこのようなワークショップを開かれたこと、特に学部を越えた意見・情報交換の場は特筆にあたいすると思います。時折、外部の声を交えながら、継続されることを期待します。

駒澤大学 F D 推進委員会の今後の活動予定

2005 年度授業アンケート実施スケジュール

- ・前期 7 月 1 日 (金) ~ 平成 17 年 7 月 7 日 (木)
- ・後期 10 月 17 日 (月) ~ 平成 17 年 10 月 22 日 (土)

F D 活動についてご意見がありましたら各学部等の小委員会委員までお申し出ください。

編集後記

早いもので、第 1 回の駒澤大学 F D 推進委員会 (平成 16 年 6 月 14 日開催) が開かれてから、すでに 9 ヶ月が経過した。この間、本委員会のほか小委員会 (計 5 回) および各種ワーキンググループが開かれ、その合間に勉強会、F D NEWSLETTER の発行、そして 2 月 28 日には F D 研修会が開催された。まあ、一言でいってムチャな委員会だった (運営がムチャだったのではなく、やるべき仕事の量がムチャだった)。

ムチャな委員会であったにもかかわらず、なんとか期待された成果が上げられたのは、委員だけでなく大学全体に F D に対して積極的に取り組もうという並々ならぬ意欲があったからだろう。この意欲はきっと次年度も継続されるはずである。次年度、F D NEWSLETTER は 4 回の発行が予定されている。一人の読者として、次の F D NEWSLETTER をいまから楽しみにしている。(猿山義広)

F D NEWSLETTER Mar.2005 第 2 号

発行日: 2005 年 3 月 31 日

発行者: 駒澤大学 F D 推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

03-3418-9867 Fax 03-3418-9037

(事務局: 総合企画室)